

1 はじめに

ユネスコでは、創造性を核とした都市間の国際的な連携によって、地域の創造産業の発展を図り、都市の持続可能な開発をめざすため、創造都市に係る国際的な都市間ネットワーク(以下「UCCN」という。)を構築している。

区は、「絵本のまち」として育んできた文化的な土台を軸に、UCCNデザイン分野の加盟をめざしている。UCCN加盟を契機として、国内外の創造都市とのネットワークを区の施策や地域活動に活用することにより、文化芸術活動の活性化や地域ブランド力の向上を図るとともに、区民が文化やデザインに触れる機会の充実、子どもたちの創造性や国際感覚を育む取組の発展、区内のデザイン、印刷・製本、光学等の関連産業の魅力発信や新たな事業機会の創出、国内外の創造都市との交流・連携の拡大などにつながることを期待される。さらに、こうした取組を通じて、区民の地域への愛着や誇りを育み、多様な主体との共創による持続可能で暮らしやすいまちづくりにつなげていく。

2 今年度のこれまでの取組について

■創造都市推進会議の開催

(1) 概要

「絵本のまち板橋」やUCCN加盟に向けた取組を効果的に進めるため、昨年度に引き続き創造都市に関する有識者及び区職員で構成される創造都市推進会議(第3回)を開催した。

(2) 第3回／第4回創造都市推進会議の内容

○日程 7月8日(水)／9月14日(月)

○議題 ①UCCN加盟申請書作成について／②創造都市推進の取組及び検討状況について

③主要設問(3問)の検討 等

■UCCN申請書作成部会の開催

(1) 概要

創造都市推進会議の専門部会として、区の創造都市推進の取組を行う団体等から構成されるUCCN申請書作成部会(以下「作成部会」という。)を開催した。

(2) 第1回作成部会の内容

○日程 5月7日(木)

○議題 UCCN加盟申請等の概略について等(委員と区職員とのワークショップ(以下「WS」という。))形式による実施)

(3) 第2回／第3回作成部会の内容

○日程 6月10日(水)／7月10日(金)

○議題 主要設問の検討等

(4) 第4回作成部会の内容

○日程 8月27日(木)

○議題 デザイン分野加盟都市等の助言を受けての検討等



第1回部会(WS)の様子

■いたばし夢企画旗揚げ公演

(1) 概要

UCCN加盟を見据え、文化芸術を基軸として子どもたちの創造性を育む機会を創出するため、区内の子どもたちが各分野で専門的な活動実績を有する指導者から指導を受け、合唱・演劇・ダンスを披露する旗揚げ公演を開催した。

○日程 5月23日(土)／24日(日)公開リハーサル／本公演

○場所 旧高島第七小学校中庭(屋内特設ステージ)

(2) 実績

○出演者 82名(合唱46名・演劇28名・ダンス8名)

○来場者 約600名

○その他 YouTubeにて開催の様子を動画で公開



旗揚げ公演(ダンス)の様子

■いたばし絵本とデザインフェスティバル

(1) 概要

大人から子どもまで絵本・デザインに親しめるよう、イタリア・ボローニャ国際絵本原画展と同時期に、区内各地で絵本・デザインに関する様々な取組を展開するイベントを開催した。

○日程 令和8年7月18日(土)～8月16日(日)

(2) 主な内容

①教育科学館(プラネタリウム)

○8月1日(土) 板橋区絵本・デザイン都市問題国際研究会議

絵本やデザインの可能性を学術的に研究する学識経験者が集い、研究と実践を共有する日英同時通訳による国際会議を開催した。

<実績>

・研究発表者 11名

インドネシア・バンドン工科大学 5名

区内外の6大学 6名

(日本大学・淑徳大学・東京家政大学・

武蔵野美術大学・女子美術大学・筑波大学)

会議参加者数 80名



板橋区絵本・デザイン都市問題国際研究会議の様子

②区立美術館

○8月7日(金) シンポジウム「ユネスコ創造都市ネットワーク加盟に向けてー絵本とデザインの可能性を拓く」

国内外のUCCNデザイン都市主要担当者を招き、板橋区のUCCN加盟に向けたシンポジウムとパネルディスカッションを実施した。

<実績>

・登壇者 5名

UCCNデザイン都市コーディネーター／スコットランド・

ダンディー市の主要担当者

国内UCCNデザイン都市(名古屋市・神戸市・旭川市)の主要担当者

区立美術館長

・参加者数 51名



シンポジウムの様子

③中央図書館ほか

区内の製本事業者及び書店等の協力により、大人から子どもまで楽しめる絵本に関する様々なWSを開催した。

<実績>

WS 13シリーズ・31回 延べ参加者数614名



WSの様子

3 今後の取組について(今年度)

(1) 絵本のまちひろば

10月17日(土)・18日(日)のいたばし区民まつりに併せて、区立板橋第一中学校体育館内で絵本の販売会、WS、ステージプログラム等を開催する。



昨年度の様子

(2) いたばし夢企画 第2弾

①演劇 日程/会場 令和9年1月24日(日) 予定/区立高島平区民館ホール

②合唱 日程/会場 令和9年2月6日(土) 予定/区立文化会館大ホール

※演目は調整中。上記以外の出演についても検討中。

4 UCCN加盟申請について

■ UCCN加盟申請書及び審査について

(1) 概要

区は「絵本のまち板橋」やUCCNデザイン分野の加盟に向けた取組を効果的に進めるため、前述の創造都市推進会議及び作成部会を設置し、UCCNデザイン分野の加盟都市による申請内容のレビューを受けながら、検討を進めている。申請書は英語表記のテキストで提出する。現時点で公表されている審査手続では、原則として書面審査により実施される。

(2) 加盟申請書の全体構成（以下は全て前回（2025年）の内容・文字数は英語表記における文字数（characters））

No.	セクション名	内容
1	都市の基本情報と担当者	都市名、国及び担当者の登録： ※主要担当者（フォーカルポイント）も記入
2	申請分野の選択	「デザイン分野」で申請
3	一般的な質問（5問・記述式）	都市の紹介、強みと課題、国際枠組との整合、加盟効果、申請準備過程（1150文字～1750文字）
4	デザイン分野の地域資源（20問・記述式）	板橋区のデザイン分野における、歴史・経済・担い手・イベント・教育研究・施設・取組・支援・国際交流・予算（各1200文字）
5	UCCNへの貢献計画（5問・記述式）	加盟後4年間の行動計画（主要取組・予算・体制・広報）（1200文字～4000文字）
6	UCCNへの約束	モニタリングレポート提出、年次総会参加、情報提供等の義務確認
7	広報素材	加盟後にユネスコサイト等で使用される広報素材。文化資産紹介文（1700文字）、ネットワーク貢献箇条書き（800文字）、URL、他ネットワーク加盟リスト
8	必要資料のアップロード	首長意向表明書、ユネスコ国内委員会推薦状、写真、地図等の添付
9	首長の宣言	首長名による申請書記載事項の真正性宣言と署名

No.	設問名	内容
3	強みと課題	区の強みと課題を整理し、創造分野でどう解決するか
4	担い手	デザイン分野に携わるコミュニティ・グループ（作り手・事業者等）
	専門家向け	過去4年のデザイン分野の専門家向け主要イベント（見本市・会議等）
	一般向け	過去4年のデザイン分野の一般向け主要イベント（フェスティバル等）
	生涯学習・高等教育	デザイン分野に特化した生涯学習・高等教育・職業訓練・レジデンス等
	国際協力	過去4年のデザイン分野における他国都市との国際協力取組
	他分野連携	過去4年の他の創造分野との相乗効果を生むプロジェクト
	国際×分野横断	過去4年の2分野以上にまたがる国際協力取組
5	他分野の施設・イベント	過去4年の他の創造分野を促進する施設・イベント
	地域レベルの主要取組	加盟後4年間の地域レベルの主要取組（最大3つ）
5	国際レベルの主要取組	加盟後4年間の国際レベルの主要取組（最大3つ）

■ 申請スケジュール（想定）※前回・前々回のスケジュールを参考（変更の可能性あり）



5 現状の課題と今後の対応策について

■ 現状の課題

①創造都市推進に関する取組の体系的な整理

国内外のUCCNデザイン分野の加盟都市との意見交換を通じて、書面審査においては、申請書の記載内容を補完する公開情報の充実が重要であるとの助言を得た。このため、申請書に記載する取組を客観的に確認できるよう、創造都市の推進に関する区の取組を体系的に整理する必要がある。

②国内外への情報発信基盤の早期整備

ユネスコへの申請後、令和9年4月から同年10月までが審査期間として想定される。申請書に記載する取組の根拠となる情報を国内外から閲覧できるようにするとともに、区民、区内事業者及び関係団体に対して創造都市の取組を継続的に発信するため、令和8年度内にWebページを整備する必要がある。

■ 今後の対応策

①創造都市推進に関する取組のアーカイブ化

令和8年度の取組を含め、創造都市推進に関連する全庁的な取組及び外部団体等との連携事例を収集・整理し、継続的に活用可能な形でアーカイブ化する。

②SDGsプラットフォームサイトを活用した創造都市専用Webページの制作

既存のSDGsプラットフォームサイトを活用し、創造都市に関する情報を集約した専用ページを制作する。申請内容を補完するとともに、区民、区内事業者、関係団体及び国内外の閲覧者が、関連情報に容易にアクセスできる環境を整備する。

ユネスコ創造都市ネットワーク(UCCN)加盟による効果

参考資料

文化や創造性を世界と結び、子どもの成長、地域への誇り、交流、産業、暮らし、共創につなげる

UCCN | 創造性を軸とする国際都市間ネットワーク 2004年にユネスコが創設した国際都市間ネットワークである。加盟都市が知見や優良事例を共有し、人や作品の交流、共同事業などを推進している。

8つの創造分野
建築、クラフト&フォークアート、デザイン、映画、食文化、文学、メディアアート、音楽の8分野で構成される。

世界408都市のネットワーク
世界408都市が参加している(2026年8月時点)。自治体、文化施設、大学、企業、クリエイターなどが、国境を越えて知見を共有し、連携する。

文化・創造性を生かした都市政策
文化芸術、教育、産業、地域交流、包摂性の向上など、文化や創造性を生かした持続可能な都市づくりを推進するものである。

板橋区が加盟すると 加盟前 個別のつながりや既存の連携を中心に事業を展開する。 ➡ 加盟後 世界408都市のネットワークを活用し、継続的な情報共有や共同事業へ展開する可能性が広がる。

UCCN加盟をめざすことで期待される6つの効果

※UCCN加盟をめざすことにより、世界の創造都市とのネットワークを区の施策や地域活動に活用することで、次の効果が期待される。

子どもの創造性と国際感覚が育まれる
学校、図書館、美術館などにおいて、絵本、アート、デザインに触れる機会の充実を図る。海外都市の子どもたちとの作品交流や国際プログラム、クリエイターによるワークショップなどの実施につなげ、表現力や創造力、異文化への理解を育む機会を広げる。こうした体験や身近なロールモデルとの出会いが、将来、クリエイターや地域の担い手を目指すきっかけとなることが期待される。

子どもの学び・体験・将来の可能性

板橋区の魅力を再認識し、地域への誇りが育まれる
「絵本のまち板橋」、印刷・製本産業、美術館、図書館、こども動物園、熱帯環境植物館などの地域資源を知り、体験できる展示、講座、イベントの充実を図る。国内外への情報発信や展示交流を通じて、板橋区の魅力を新たな視点から捉え直し、地域への愛着と誇りが深まる。さらに、地域活動やまちづくりへの参画、区民と行政との対話や協働につなげる。

地域への愛着・地域参加の促進

国内外との交流が広がり、地域の活性化につながる
国際交流イベント、作品展、まち歩き、創作体験などを通じて、世代や国籍、言語の違いを超えたつながりを広げる。また、国内外の創造都市との共同事業や相互訪問など、区民や地域団体が国際交流に参加する機会の拡大につなげる。来訪者による飲食や買い物、宿泊などの地域内消費に加え、クリエイティブツーリズムや滞在型観光の展開により、商店街などのにぎわい創出につながることが期待される。

交流人口の拡大・地域のにぎわい

地域産業の活性化と新たな仕事の創出につながる
板橋区の基幹産業である印刷・製本・光学の技術と、絵本、デザイン、デジタル表現を組み合わせ、新たな商品やサービスの開発につなげる。国内外の企業、大学、クリエイターとの連携を通じて、情報発信や販路開拓、受注・輸出、産学官連携、起業・創業、企業誘致などの機会を広げ、個人事業主を含む区内事業者の成長や人材確保につなげる。

身近な商品・サービス・雇用の創出

持続可能で暮らしやすいまちづくりが進展する
加盟都市が有する、まちづくり、教育、産業振興、インクルーシブデザイン、デジタル技術の活用などの先進事例や知見を共有し、子育て施設、文化施設、公共空間、情報発信などに生かす。年齢や言語、障がいの有無にかかわらず、誰もが参加しやすい環境を整え、地域資源を生かした持続可能で暮らしやすいまちづくりにつなげる。

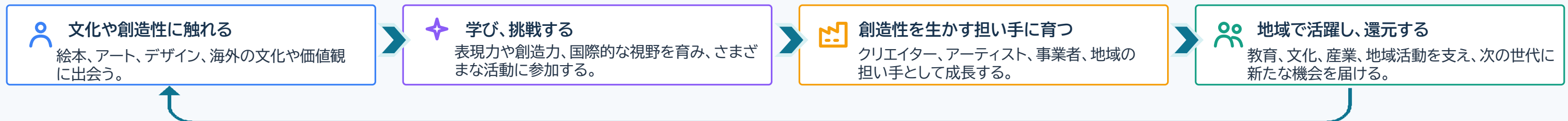
持続可能性・地域課題の解決

創造性が地域に定着し、多様な主体との共創が広がる
区民、地域団体、大学、事業者、行政が共に企画・実践する機会や拠点を増やし、創造的な活動が地域から自発的に生まれる基盤を形成する。国内外の多様な主体との共同企画や知見の共有を通じて、地域をより良くするアイデアを集め、企画や実践につなげる。創造都市の取組を一部の関係者にとどめず、区民一人ひとりが身近な活動として参加できる取組へ広げる。

共創・大学連携・創造的な日常

4年ごとの報告と次期行動計画により、取組の成果や課題を点検し、改善を重ねながら継続性を高める。

次世代育成と地域発展の好循環 「触れる・学ぶ」から「成長し、地域に還元する」へ。人材と創造性が地域の中で循環する。



育った人材の活躍が、次の子どもたちの「出会い」と「憧れ」を生む。

次世代育成 子どもや若者の可能性が広がり、育った人材が次の世代に学びや経験を還元する。

文化・産業 新たな作品、仕事、商品、サービスが生まれ、活動の場が国内外へ広がる。

地域参加 世代や国籍、言語の違いを超えた共創と、大学、企業、地域との連携が広がる。

持続可能性 定期的な点検と改善により、10年後、20年後も取組を継続する。